第1課　人生のリズム

【暗唱聖句】

「何事にも時があり、天の下の出来事にはすべて定められた時がある」コヘレト3：1

【日曜日・初めに】

「初めに、神は天地を創造された。地は混沌であって、闇が深淵の面にあり、神の霊が水の面を動いていた。神は言われた。「光あれ。」こうして、光があった」創世記１：１～３

「初めに神は天地を創造された」。この短い言葉には、驚くべき事実が3つ書かれてあります。一つ目にこの世界には初めがあったということ、二つ目に神が存在するということ。そして三つ目に、その神が天と地を創造されたということです。世界の初めの状態を特徴づけるのは、「混沌」でした。混沌とは、ギリシャ語でカオスと言い、「物事が混じり合って、区別の無い世界」という意味があります。秩序のない世界です。あいまいな世界です。口語訳聖書では混沌を、「形なく、むなしく」と訳していますが、世界の初めは、色々なものがごじゃごじゃにあって混沌としていたというよりも、形あるものが何ひとつなく、まったく空虚な世界だったのです。そこで神様は「光あれ」と言って光を出現させ、1日毎に空虚で混沌としていた世界に、神様が創造された素晴らしいもので満たしていきます。闇は消え、混沌とした世界に秩序が生まれていきます。

「秩序は天の第一の法則である」エレン・G・ホワイト

天地創造の4日目に、神様は「天の大空に光る物があって、昼と夜を分け、季節のしるし、日や年のしるしとなれ」と言われました。月や太陽が生じた瞬間ですが、同時に地球の自転と公転活動によって、昼と夜が分けられ、季節のしるしや日と年のしるしが生まれます。一切狂うことのない時計のように、天体は規則正しく動き、昼と夜と季節は変わることなく巡り行きます。これは正確無比で驚異的な神様の秩序の中に、この天地があることを証明します。そして、自然は神様の造られたリズムで時を刻んでいます。このことは、神様も秩序正しい方であることを物語っています。ただ人が罪を犯し、特にノアの大洪水後は、この神様の秩序正しい動きに変化が見られます。創世記8：22で神様はノアに次のように語られました。

「地の続くかぎり、種蒔きも刈り入れも寒さも暑さも、夏も冬も昼も夜も、やむことはない。」

「寒さや暑さも…やむことはない」という表現に、それは必ずしも喜ばしいものではないという印象を受けます。それでも、神様の秩序は維持され、リズム正しく動き続けることが語られています。さらに新しい天と地でも、生活にリズムがあることを示唆しています。

「わたしの造る新しい天と新しい地がわたしの前に永く続くように、あなたたちの子孫とあなたたちの名も永く続くと主は言われる。新月ごと、安息日ごとにすべての肉なる者はわたしの前に来てひれ伏すと主は言われる。」イザヤ書66章22、 23節

「新月ごと、安息日ごとに」という表現の中に、新しい天と地にも規則正しいリズムがあるのを見ることができます。

【月曜日・人生のリズム】

わたしたちの身体の中には体内時計と呼ばれる生態学的リズム（概日リズム）があります。これによってある程度規則正しい生活を送ることができます。夜昼や季節などの自然界のリズムだけでなく、私たち自身の中にもリズムを神様は造ってくださったわけです。

人生には生まれる時と死ぬ時（コヘレト3：2）があります。そしてこの生と死の間で人は様々な季節を経験します。結婚や出産、育児、結婚しない人、子どもを持たない人もいます。それぞれの人生であり、それぞれが違うリズムの中で生きています。違うということは、誰もが人の持っていないものを分かち合うことができるということでもあります。つまり、この違いによって他者の祝福となれるということです。このように考えることは、人生をより明るく、意味のあるものにしてくれます。

【火曜日・予期せぬこと】

人生の中で予期せぬことは常に起こりうるものです。病気や怪我、事故や人間関係や仕事上のトラブルなどが不意に起こると、その瞬間、順調だった人生のリズムが崩れます。もちろん、人生のリズムの変化は悪いことばかりではありません。結婚や就職、昇進など良いこともあります。転勤や引っ越しで住む場所が変わるということもあるでしょう。このような場合も人生のリズムに変化がもたらされます。

　聖書の中ではヨブの経験ほど過酷な変化はないでしょう。子供を一瞬にして失い、自分の酷い病気に襲われてしまいます。妻の支えも友人たちの励ましも失い、平和な家庭が壊され、生活は一変してしまいます。ヨブに起こった出来事は極端かもしれませんが、しかし人生において予期せぬことが起こることはあるのです。その予期せぬ出来事によってそれまでの生活のリズムは壊されます。しかし、それでもまた新たなリズムを刻み始めるのです。

【水曜日・推移する】

人間は年を取るほどに習慣化された毎日の生活を変えることが難しくなります。しかし、そのような中にあって、神様はわたしたちの品性を変えてくださり、新しい人へと作り変えてくださいます。これは神様の救済計画でもあります。聖書の中ではサウロの回心が有名です。キリストを迫害するものから、キリストを伝えるものへと変えられていきました。ダマスコへの途上でキリストは光の中からサウロに現れ、「サウロ、サウロなぜ私を迫害するのか」と声をかけられた出来事は強烈でしたが、重要なのはその後の一人になって3日間祈りながら、これまでの自分の人生や考えは正しかったのかと苦闘したことです。その苦闘の中で、変化が起こっていくのです。エレン・G・ホワイトは次のように解説しています。

「サウロは聖霊の罪を認めさせる力に全く屈服したとき、自分の人生の過ちを知り、神の律法の広範囲に及ぶ要求を認めた…謙遜に幼な子のように単純な気持ちで神の御前にぬかずき、自己の無価値さを告白し、十字架にかけられ、よみがえられた救い主の功績を、自分のために懇願した。サウロはみ父やみ子との完全な一致と、霊的な交わりに入りたいと思い、自分が許されて受け入れられるように切に願って、熱心な祈りを捧げた」

このサウロのような変化は、神様が導かれたものです。頑固で絶対に変わらないと思うような人でも、神様のみ前では変わるのです。そのときから人生のリズムは新たにされます。このような変化をもたらされたキリストは、それを最後まで成し遂げてくださいます。

「あなたがたの中で善い業を始められた方が、キリスト・イエスの日までに、その業を成し遂げてくださると、わたしは確信しています」フィリピの信徒への手紙1章6節

その結果、「今や、キリスト・イエスに結ばれている者は、罪に定められることはありません」（ローマの信徒への手紙8章 1節）と言えるのです。

【木曜日・相互作用】

神様はわたしたちが他者との関係の中で生きるように創造されました。様々な人間関係の中で相互に影響を与えあっています。それは良い影響もあれば、悪い影響もあるでしょう。突然、その関係が変化することもあります。聖書の中には、人間関係についてどうすべきかが色々と書かれてあります。

・互いに受け入れあうこと。

「だから、神の栄光のためにキリストがあなたがたを受け入れてくださったように、あなたがたも互いに相手を受け入れなさい」ローマの信徒への手紙 15章7節

・愛を持って互いに忍耐すること。

「一切高ぶることなく、柔和で、寛容の心を持ちなさい。愛をもって互いに忍耐し、」エフェソ4章 2節

・互いに親切にし、憐みの心で接し、赦しあうこと。

「互いに親切にし、憐れみの心で接し、神がキリストによってあなたがたを赦してくださったように、赦し合いなさい」エフェソ4章32節

・愛し合うこと

「どうか、主があなたがたを、お互いの愛とすべての人への愛とで、豊かに満ちあふれさせてくださいますように、わたしたちがあなたがたを愛しているように」テサロニケの信徒への手紙一3章 12節

・祈りあうこと。

「だから、主にいやしていただくために、罪を告白し合い、互いのために祈りなさい。正しい人の祈りは、大きな力があり、効果をもたらします」ヤコブの手紙5章 16節

このような人間関係の中で、私たちは成長していくことができます。